

## 指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名： 求菩提資料館
- 2 指定管理者名： 豊前市
- 3 指定期間： 平成31年4月1日～令和6年3月31日
- 4 施設設置目的： 求菩提山修験道に関する資料の収集、保存及び展示
- 5 管理運営についての点検結果（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
  - (1)点検方法： 事業報告書、現地確認、ヒアリング等をもとに指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
  - (2)点検結果： 別添のとおり

## ①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	・ 史跡「求菩提山」及び重要文化的景観「求菩提の農村景観」を中心とした修験道関係遺跡に関する資料の収集、保存、展示という館の設置目的に沿った管理運営を行う。	・ 史跡「求菩提山」の修験道文化を紹介する施設として展示、保存、調査及び教育普及に努めている。 また、資料の保存については、盗難、災害などからこれらを守るため万全のセキュリティ体制をとるべく、警備会社とも協議して適切な方法で行っているほか、一年おきに収蔵庫の防虫・防カビのため燻蒸処理を行っている。
②施設利用及びサービス向上	・ 常設展示の他、企画展などを行う。 ・ 市民歴史講座（年5回）を実施する。	・ 年間の事業計画に基づいて調査、教育普及活動などを行っている。その方策として、HPによる情報発信、案内表示の設置、各種団体からの求めに応じて講演や展示解説などを積極的に行っている。 ・ 企画展：春の企画展「絵織～植山佳子のつづれ織り～」及び早春企画展「おひなまつり」などを開催した。 ・ 児童生徒向けに夏休みイベント「森の工作教室」を実施した。 ・ 秋の企画展「お茶～求菩提に伝わった茶とその未来～」に合わせ、講演会等のイベントも開催した。 ・ 利用者数4,625人（対前年度比：20.8%） ・ 高齢者や障がいのある方に対しては、必要に応じて職員が対応している。
③経営（収支）改善	・ 報酬等、人件費の抑制に努める。 ・ 需用費等の支出軽減に努める。	・ 委託料実績 8,254千円（対前年度比100%） ・ 地元ボランティアとの協働及び経費の抑制に努めている。
④職員確保方策及び健全な財政基盤	・ 館の運営に必要な専門的知識を有する職員の確保に努める。 ・ 史跡ボランティアの育成と活用を努める。	・ 豊前市生涯学習課兼務職員1名（館長）、学芸員1名、事務職員2名を配置。 ・ 企画展等の開催時は多くの入館者に対応するため、地元ボランティアに協力を求めた。 ・ 史跡ガイドボランティアの月例会（毎月第3土曜日※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により7月以降実施）で行われる学習会に学芸員が参加し、ボランティアの育成を図っている。
⑤施設管理上の個別事項	・ 現状の設備の中で文化財の適切な保存に努める。	・ 文化財の保存のために除湿機の活用など対応している。 ・ 展示ケース等の照明を計画的に取り替えている。 ・ 消防施設、エレベーターなど、点検が必要なものについては法令を遵守し対応を行っている。 ・ 災害時には危機管理体制に従い適切な対応ができるよう、確認を行っている。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、体温確認、消毒液の設置、換気等を実施し、感染拡大防止に努めた。

## ②点検結果

<input type="checkbox"/> A+（提案内容を上回った） <input type="checkbox"/> A（提案内容をやや上回った） <input checked="" type="checkbox"/> B（概ね提案内容どおり） <input type="checkbox"/> C（提案内容をやや下回った） <input type="checkbox"/> D（提案内容を下回った）	【総合コメント】 地元住民を対象とした歴史講座開催など、住民が地域の文化を学び、郷土愛を育む教育機関として活用されている。 史跡ガイドボランティアによる重要文化的景観「求菩提の農村景観」及び国史跡「求菩提山」のガイドが実施されており、協働することで当館が文化財活用の拠点施設としての役割を担っている。 季節ごとの企画展や地元の特長を活かした企画展の開催など、年間を通して人を呼び込むための魅力ある展開に努めている。 昨年度と比べての入館者数減少は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イベントの中止や休館の対応をした影響が大きいと考えられる。
---	--